
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 63

2010.7.15 (金)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今月の日本の海 沖縄県古宇利島」

沖縄県沖縄島北西部の今帰仁漁港の向かい側にある古宇利島に古宇利大橋が架けられたの



は、ほんの5年前。ジュゴンが訪れて海草を食べている美しい海に架橋工事が行われた。工事の影響がどの程度あったか、今となってはよく分からないままだが、ジュゴンは今でもやって来ている。しかし、海草藻場の面積はやはり減

少したといわれている。付近は小島がたくさん浮かび、透明な海水と相まって絶景を見せる。橋の存在は350人程度の島の人にとっては、今ではもう手放せないものになっているが、観光客が大幅に増加し、船で行き来していた頃の美しい海は、いっそう先行きが案じられるようになった。(沖縄県古宇利島からみる古宇利海峡と古宇利大橋 向井 宏撮影)

目次 「今月の日本の海」 沖縄県古宇利島

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会の現在の活動と予定
3. 海の生き物を守る会活動報告
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. 海の生き物とその環境に関する本と web
6. 事務局便り
7. 編集後記

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●「海的环境を川の石磨きで守る？」の記事について

「あの記事を読んで私も疑問を持ちました」という意見が小西裕伸会員から寄せられた。そして、兵庫県安室川というところでも、川の石を磨く環境活動を行っているということを知っていただいた。「安室川自然再生事業」という名前で、上郡土木事務所が主導して「川底をきれいにする」取り組みが重点施策として行われているようだ。その中で川底の石を磨くということが行われている。これは、川底の岩に付着して生長する「チスジノリ」という淡水でもっとも大型になる藻類が、川の石に粘土などのよごれが付着すると、定着できなくなり、日本固有の絶滅危惧種であるチスジノリが絶滅してしまうかもしれないので、川底の石を磨く取り組みを行っているということのようだ。

では、なぜチスジノリが定着できなくなってしまったのだろうか。それは、治水を目的としたダムなどの事業によって、大雨が降ったときの洪水が起こりにくくなり、川が自然浄化能力を失ってしまったからなのである。川が自然に行ってきた浄化を、治水のためのダムなどが起こさせなくなったということ。このような現象は実は日本中の川で見られている。ダムなどによる治水や利水の結果、川の水がきわめて少なくなったり、雨が降っても下流に流れてこなくなるなど、河川が持つ本来の浄化能力が無くなり、そのためにダム下流の川の生態系が劣化している例は多い。そのために、チスジノリを定着させ絶滅から守るために、住民を巻き込んで川底の石を磨いている。

なにかおかしいと思わないか？ダムの現状を変えることなく、住民に石磨きをさせて、素晴らしい住民活動だと褒める。では、ダムを造って川の生態系を劣化させたことは誰が

責任を取るのだろうか。ダムがあっても運用次第で川の生態系をもう少し自然に近いものに返すことも可能かもしれない。そのようなダムの現状を変えること、すなわち川の生態系の劣化を招いた本当の原因をしっかりと見つめず、住民をおだてて川の石を磨かせる……。そしてそれに甘んじる、いや、自然再生をやっていると思いきむ住民たち。この構図はいろんところで目に付く。本当の自然再生とは何か、もっと住民は賢くならなければならない。

先号で書いた岩手県一関市の砂鉄川の場合にはどのような理由で行っているのか、情報が無くて不明です。もし情報をお持ちの方があればお知らせください。

【関東】

●匝瑳市堀川浜 海岸浸食で海水浴場開けず

千葉県匝瑳市の堀川浜は、毎年海水浴場が開設されて市民が海水浴を楽しんでいたが、近年は海岸侵食が進み、昨年は海水浴場で砂浜が急激に削れたため、海水浴場開設から2週間で急遽閉鎖された。今年はさらに侵食が進み、安全が確保できないとして海水浴場は開設されないことになった。匝瑳市は、堀川浜の6ヶ所で海底状況や潮流などを調査した結果、離岸流が各所で発生していること、常時0.5~1mの波があること、1mの高さの浜崖ができていていることなどから、安全上問題が多いと判断した。

【東海】

●ゴミと生きる魚 写真図鑑を出版

静岡県伊東市の水中カメラマン伊藤勝敏さんが、海底に散らばるゴミの中でたくましく生きている魚たちの写真図鑑を出版した。題して「どっこい生きている ゴミの中 ーたくましい海の魚たち」（保育社、2200円）。伊藤さんは、ゴミの中で生きざるをえない魚を見て、彼らのたくましさと環境の悪化を思ったという。それ以来、主に伊豆の海で運動靴の中に住み着いたホンササノハベラや廃タイヤに棲むマダコなどを紹介したり、サンゴ礁の荒廃やオニヒトデの大発生など、海の環境の悪化について写真で伝えてきた。

●遠州灘の砂浜にコアジサシのひな

静岡県の遠州灘海岸では、渡り鳥のコアジサシが繁殖し、雛が砂浜を歩き回っている。20年前には1000羽を超えるコアジサシが繁殖していた砂浜も、海岸の環境が悪化したり、観光客が入り込んだりと、コアジサシの繁殖も不成功に終わる年が増えてきた。静岡県渡り鳥研究会などのNPOなどが保護を進めている。

【北陸】

●長野市の児童が氷見の海で水生生物観察

富山県氷見市の天然記念物「虻が島」で、海のない長野県長野市若槻小学校の6年生らが臨海学習で海の生き物を観察するなど、海辺の生活を楽しんだ。これは、国の「子ども農山漁村交流プロジェクト対策交付金」を利用して、氷見市の観光協会や商工会議所などと氷見市が作っている「氷見市宿泊体験推進協議会」が招待したもの。小学生たちは民宿に泊まり釣りを楽しんだり、地引き網体験などを経験した。

●十数年ぶり 小松・安宅海浜公園の廃棄物一掃へ

石川県小松市安宅町の安宅海浜公園の一部に市内の廃棄物処理業者が廃棄物を大量に山積みしている件で、市民からの苦情を受けて土地の所有者と使用者が廃棄物を処分することになった。1996年に安宅観光協会から土地を借り受けた処理業者が大量の廃棄物を残したまま倒産し、さらに何者かがその廃棄物の上に古タイヤや家具、テレビ、建設廃材などを次々と持ち込んで廃棄物が300㎡の海浜公園を占拠するほどになっていたもの。市民の抗議を受けて、小松市が指導してようやく撤去されることになった。

●手取川右岸河口 護岸老朽化で崩壊の危険 立入禁止に負けぬ釣り客

石川県白山市の手取川河口右岸は、護岸が老朽化し崩壊のおそれがあるため立入禁止になっている。しかし、ここは絶好の釣り場として知られ、週末には多くの釣り客が立入禁止を無視して釣りを楽しんでいる。国交省金沢河川事務所によると、この護岸は20年以上前に作られたが、コンクリートを下から支えている鋼鉄製の矢板が腐蝕し、内部の砂が流れ出しているという。同事務所では、護岸の付け根部分にフェンスを設置して立入禁止としているが、釣り客は何とも思っていないようだ。護岸の崩壊がいつ始まるか、釣り客の自己責任が問われている。

●千里浜の浸食深刻化 浜茶屋の維持も困難に

福井県羽咋市の千里浜海岸では砂浜の侵食が深刻化している。浜には海水浴シーズンになると茶屋が3軒建ち並ぶが、茶屋から海までわずか5mくらい。満潮時には床下にまで海水が押し寄せる。昔は浜茶屋から海まで「はだしでは足の裏が暑くなって海まで行けない」とまで言われた砂浜だが、いまでは大部分が無くなってしまった。今年も侵食が進み、6月はじめに茶屋を建てたときには10m程度の砂浜があったが、ここ1ヶ月で半分ほどになったと茶屋の経営者は嘆いている。福井県によると、千里浜の侵食速度は毎年約1m程度とされているが、場所によっては2mを超えるところもある。現在、県では浸食対策として毎年砂を補充しているほか、人工リーフの設置を6-7年かけて150mのものを2基設置する予定である。しかし、リーフを設置しても恒常的に砂を入れなければ、砂浜は維持できない。ダムや港湾、護岸などの建設で陸と海の間隔を絶ってしまった以上、砂浜を維持するため

には砂を入れ続けなければならない。この悪循環をどうすべきか、根本から考え直す必要があるだろう。

【近畿】

●大きなウミヘビ捕獲 白浜町椿

和歌山県白浜町椿の定置網に、熱帯地方のウミヘビ科の魚「モヨウタツウミヘビ」が入っているのを田辺市の池田博美さんが発見した。和歌山県では2例目、国内でみつかった個体の中ではもっとも大きいことが判った。全長 153.4cm。現在知られている分布の北限は和歌山県。ウミヘビと言われるものには、爬虫類のウミヘビと魚類のウミヘビがいるが、この「モヨウタツウミヘビ」は魚類のウミヘビであり、毒牙を持たない。

●エビとカニの水族館が今期限りで閉館

和歌山県すさみ町にある特色ある「エビとカニの水族館」は、経営不振もあって今期限りで閉館することになった。来年3月の閉館が決まってから、来館者は増えているという。甲殻類を中心にして展示をしてきた博物館は日本でも他に例が無く、ユニークな展示で知られる。残念な閉館である。

【中四国】

●過剰繁殖の藻類を堆肥に 宮崎県へ提供

鳥取県とNPO「未来守り（さきもり）ネットワーク」が、中海で過剰に繁殖している海藻類（オゴノリ、ホソジュズモなど）を堆肥に加工し、口蹄疫の影響で堆肥が不足している宮崎県の農家に無償で提供することを決めた。中海では富栄養化に伴ってオゴノリなどの海藻が過剰に繁殖し、これらが腐敗して水質の悪化を引き起こしている。そのために、NPOでは、海藻を肥料に利用することを考えて、堆肥を開発した。口蹄疫で物資の移動もままならない宮崎県の農家から堆肥が手に入らないかと問いかけられ、試しに海藻から作った堆肥を送ったのが今回の鳥取県から宮崎県への支援に結びついた。費用は鳥取県が支払うことになっている。

●宍道湖のカビ臭 ラン藻が原因

島根県宍道湖では2007年以降カビ臭が発生、年々ひどくなって特産のシジミの加工品が一時的に取引できなくなった。その原因を調べていた島根県保健環境科学研究所では、らん藻類の植物プランクトン「コエロスファエリウム」がカビ臭の発生源だと発表した。このらん藻が「ジェオスミン」とよばれる物質を生産し、その物質がカビ臭を発生するという。

●中海で生態系が再生の兆し

島根・鳥取両県の中海干拓・淡水化事業を国が中止して 10 年が経過した。その後、干拓のために建設された堰堤などのうち、中浦水門、西部承水路堤などの大きな構造物が撤去されたことにより、無くなっていた中海の流れが一部復活し、海水と淡水が混じり合うようになった。旧本庄工区の森山堤防も 60m が開削され境水道とつながったことも大きい。「去年はアサリが湧くように増えた。湖心の深いところは別としても浅場はきれいになっている」「中海は再生にいくらか手を貸せば、漁業再生や観光活性化の潜在能力は日本一だ」と海藻研究所の新井章吾所長は強調している。

【九州】

●佐賀県が国に調停相談へ 海砂採取境界で本県と再協議平行線

佐賀県と長崎県が海砂の採取許可区域の問題でお互い譲らず、佐賀県は国に調停を申し出るようになった。問題の海域は長崎県壱岐市と佐賀県唐津市の間付近で、境界をどこに設定するかでお互いの主張が食い違ってきた。これまでは、長崎県が中間線より佐賀県側で壱岐市の業者に海砂採取許可を出してきた。佐賀県は黙認してきたが、2008 年に佐賀県が等距離ラインを境界線とすることを提唱、それ以来主張が対立してきた。佐賀県は壱岐市の業者への許可を取り消すよう長崎県に要求している。長崎県は現在のラインを承認するという取り決めがあったと主張している。

両県の担当部長による協議が 7 月 8 日、長崎県庁であった。協議は物別れに終わったため、佐賀県側は自治体間の争いを処理する「自治紛争処理委員」設置を総務省に申し立てることを長崎県側に伝えた。

海砂の採取はもうやめた方がよい。境界争いよりも、海砂の採取に代わる案を協議して欲しいものだ。瀬戸内海ではほとんどすべての県で採取禁止になった。長崎県もぜひとも海砂の採取を禁止する方向を出してもらいたい。

●岡垣町 三里松原海岸で 2 年連続ウミガメ産卵

昨年初めてアカウミガメの上陸・産卵が観察された福岡県三里松原海岸では、今年も 1 頭目のアカウミガメが上陸し産卵しているのが発見された。波打ち際から約 15m の浜で深さ 30-50cm に 98 個の卵を産んだ。岡垣町から調査を委託されている「岡垣ウミガメ倶楽部」では、卵を移動させ、防護柵を設置した。なぜ、卵を移動させたのだろうか？余計なお世話ではないのか。

●八代海赤潮で被害 鹿児島県が対策本部

熊本県八代海で赤潮プランクトンの「シャトネラ・アンティーカー」が増殖し赤潮が広がっている。赤潮は有明海・八代海に広く発生し、熊本県天草市で養殖漁業に被害が出たほか、鹿児島県長島では養殖ブリ約 2 万匹が死ぬ被害が出たと鹿児島県が発表し、赤潮緊急対策

本部を発足させた。昨年も年間合計約 121 万匹に被害が出た。7 月 2 日に鹿児島県では赤潮警報を発令し、養殖業者に餌止めやいけすの移動などを指導している。

●八代海の赤潮 拡大阻止へ粘土の溶液散布

熊本県天草市では、八代海の赤潮で被害が出たことから、養殖業者らが被害拡大を防ぐために効果があるとされる粘土の溶液をいけす周辺に散布し始めた。漁業者らによると、粘土の溶液は、赤潮プランクトンの細胞膜を破壊する効果があると言う。それは科学的に本当だろうか？だれかご存じの方は教えていただきたい。

【沖縄】

●有毒藻類が発生 久場ビーチ

沖縄県中城村の海岸（通称久場ビーチ）で、有毒ならん藻類である「リングビア」が発生したと沖縄県業務衛生課が発表した。今のところ健康被害の報告はないが、海水浴や海中作業はなるべく控えるようにと注意を呼びかけている。海中作業ではウエットスーツ着用が必須。リングビアは糸状の藻類で、他の海藻類に付着して生育するが、大増殖する場合は砂や岩などあらゆるところに付着すると言われている。毒成分のリングビアトキシンを含み、触れると皮膚炎を起こし、水疱やかゆみ、痛みを伴う。毒の強さは種類によっても場所や年によっても変化するといわれ、今回発生したものの毒性はまだよく分かっていない。ヨーロッパでは 20 世紀の前半にリングビアが大発生し、アマモがそれが原因で病気になりアマモ場が無くなったとも言われている。

2、海の生き物を守る会 現在の活動と予定

●第2回講演会と映画会・観察会 北海道厚岸と大黒島で

今年度第2回目の「海の生き物を守る会」講演会は、映画上映会を兼ねて以下の要領で実施します。多くの方の参加をお待ちしています。

日時：2010年7月31日（土）15:00～18:00

場所：北海道厚岸町アイカップ 北海道大学アイカップ自然史博物館

映画：鎌仲ひとみ監督作品「ぶんぶん通信No.1～3」

講演：「瀬戸内海の最後の楽園＝長島の生きものたち」

講師：向井 宏（海の生き物を守る会代表）

主催：海の生き物を守る会・北海道大学厚岸臨海実験所

参加費：500円

また、翌日は下記の要領で大黒島観察会を行います。

日時：2010年8月1日（日）9:00～12:00

集合：厚岸町北海道大学厚岸臨海実験所棧橋 08:50

行き先：大黒島番屋崎付近 北大臨海実験所の新鋭船「みさご丸」で約15分

指導：仲岡雅裕（北大厚岸臨海実験所長）・向井 宏（海の生き物を守る会代表）

参加費：500円（前日の映画会と共通で800円）

用意するもの：長靴、雨具もしくはウインドブレーカーなど。弁当、カメラは必要に応じて。

参加希望者は、事前に向井（090-8563-1501；hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp）まで申し込んで下さい。船には定員（28名）があり、先着順に参加を認めます。現在すでに20名程度の申し込みがあります。また、その日の気象によって出航できない場合があります。

31日の夜、北大厚岸臨海実験所で宿泊を希望する方は事前に申し込んで下さい。宿泊費は1000円以下です。



海の生き物を守る会・北大厚岸臨海実験所 共催

鎌仲ひとみ監督作品映画上映
「みつばちの羽音と地球の回転」未編集フィルム
「ぶんぶん通信No.1~3」
上関 一瀬戸内海の最後の楽園—
原発建設に抗して自然と共に生きる祝島の人々

講演：「なぜ長島の自然を壊すのか？」
講師：向井 宏（海の生き物を守る会代表）

日時：2010年8月31日（土）15:00-18:00
場所：北海道厚岸町アイカップ自然史博物館研修室
参加費：500円
参加申込：090-8563-1501（向井）まで

翌日には、大黒島での自然観察会があります

海の生き物を守る会・北大厚岸臨海実験所 共催

珍しい海の生き物を見るまたとない良い機会です

大黒島自然観察会へのお誘い

厚岸湾の入り口にある無人島「大黒島」は世界でも名高い海鳥の観察ポイント(天然記念物) アザラシなど海獣類も観察できます(ラムサール条約登録湿地) 北の海の高藻の林と独特な生き物の宝庫です(環境省モニタリング重点地区)

日時: 2010年8月1日(日) 9:00~12:00

集合: 08:50 a.m. 北大厚岸臨海実験所棧橋

乗船: 北大「みさご丸」 定員30名

参加費: 500円

申し込み・問い合わせ先: 090-8563-1501(向井)まで 先着順 船の定員に成り次第締め切ります

前日に映画上映会+講演会
があります



なお、今年第3回の講演会・観察会は、8月28日(土)に、茨城県大洗の平磯海岸で行います。大洗水族館見学も予定しています。お楽しみに。

3. 海の生き物を守る会 活動報告

●紀伊民報に講演会の様子が掲載

6月26日に和歌山県白浜町の京大臨海実験所で行われた海の生き物を守る会の第1回講演会の様子が、紀伊民報の7月7日の朝刊に掲載されました。

フジツボの魅力紹介

白浜 倉谷さんが講演

フジツボに詳しい、神戸市の海洋生物研究家倉谷うららさんがこのほど、白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所で講演。「ターウィンの愛したフジツボたち」と題して、生態などを紹介した。

海環境保全を目的に活動する「海の生き物を守る会」

|| 京都市 || 主催。



フジツボの生態について話す倉谷うららさん（白浜町で）

海洋生物学を学んだイギリスでフジツボに魅了されたという倉谷さんは、日本で気持ち悪いと敬遠されがちなフジツボの構造や餌の捕まえ方などを画像で説明した。海外で食用として養殖されていることや、日本でもカメノテとして提供されている例を話した。

イギリスの博物学者ターウ

ターウィンも研究

インが8年間フジツボの研究に没頭した事実を紹介し、殻ではなく中身の軟体部に進化の過程を見いだした発見について触れた。フジツボが岩などに固着するため物質が、歯科治療など医療分野へ応用できるとして研究されている例も紹介した。

フジツボの分類学的世界的権威で、同実験所所長も務めた生物学者の内海富士夫（1910～1979）の功績にも触れた。



光で

健康相談（午後1時～1時半
東集会所）▽3歳6カ月児
健診（午後1時～1時半）市
民総合センター7号室女性

新宮通信部 0735(31)7174 和歌山支局 073(428)7171 購読の申し込みは本社販売部 0739(22)7171(代)

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

●海の日記念連続イベント

<海洋の保全と市民／地域の役割～海洋保護区の役割と可能性>

私たちはCBD市民ネット沿岸・海洋生物多様性保全にかかわる作業部会として、この10月に開催されるCBD-COP10における海洋の保全の前進を願って活動している31団体のメンバー・研究者・市民です。

このたびの会議において、海洋の保全は大きな課題となっており、基調講演をされるリー博士は、会期中の世界海の日(10月23日)に、あらたな海洋の保全の推進を目指す「愛知・名古屋マニフェスト」を呼びかけています。

当日は各地域において、実践的な沿岸・海洋保全に取り組んできた方々からのご発表も

あります。直前のお知らせになりましたが、よろしくご参加の程、お願いいたします。

日時 7月17日 10:00～14:30

場所 地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F

TEL: 03-3407-8107 <http://www.geoc.jp>)

主催: CBD 市民ネット 沿岸・海洋作業部会

協力: 地球環境パートナーシップ

後援: 日本財団

基調講演: Jihyun Lee 博士(CBD 事務局 海洋担当)

「生物多様性条約における海洋・沿岸の生物多様性の保全と持続的な利用」
環境省「海洋生物多様性保全戦略について」

当日は、私たちがこの間キャンペーンを行ってきた「推薦！海洋保護区」の紹介と展示、
日ごろなげなく食べているお魚のことがよくわかる見て楽しい「おさかなガイドブック」の紹介があります。

プログラムの詳細は以下をご覧ください。 <http://marine.cbdnet.jp/>

●7月19日(月・海の日)

<オーシャンミーティング in 田原>

主催: 表浜ネットワーク 愛知県田原市(渥美半島) info@omotehama.net,
<http://www.omotehama.net/> TEL 0532-21-1192 FAX 0532-21-1192

共催: CBD 市民ネット/沿岸・海洋作業部会

同じく Lee 博士の基調講演のほか、地域行政担当者も参加され、ともに沿岸・海洋の生物多様性保全とそれに資する海洋保護区設置について議論を行います。ミニエクスカーションもあり。多くの皆様のご参加をお願いします。

●長島の貴重な自然を守ろう ラジオで主張

ラジオ番組 FM79.7の「京から Green コミュニケーション」という番組で、海の生き物を守る会代表の向井 宏が「上関町長島の貴重な自然を守るために」語ります。

放送予定は、

7月16日(金) 17:00～17:30

7月17日(土) 08:00～08:30, 14:00～14:30

遠くの方は、7月19日以降 web からでも聴くことができます。

●瀬戸内海の生物多様性保全のための三学会合同シンポ4回目は京都で

広島、東京、光と続いてきた三学会の合同シンポは以下のポスターにあるように、今度は京都で行われます。上関原発建設は、いよいよ田ノ浦の埋め立てを狙っています。長島の貴重な自然を守るために、多くの人にこの事実を知ってもらいたいです。

瀬戸内海の生物多様性保全のための第4回三学会合同シンポジウム

上関

かみのせき
瀬戸内海の豊かさが
残る最後の場所

豊かな生物相と高い生産力に恵まれた瀬戸内海。その豊かさがほとんどの場所
で失われた今も、上関のまわりには、驚くほど多様な生物が残っています。こ
こでの原子力発電所建設計画について、生物学研究者の三学会(日本生態
学会、日本鳥学会、日本ベントス学会)は、もっと慎重な環境アセスメントを求
める要望書を提出しました。その内容を一般に紹介します。



日時 2010年7月25日(日) 13:30~16:45

会場 京都大学吉田キャンパス
吉田南4号館1階「4共11」教室 (京都市左京区吉田二本松町)

参加費:500円(資料代)

京阪電車(嵯峨線)「九条町」徒歩10分/バス停「京大正門前」下車、吉田キャンパス西門を入り下さい

●プログラム(13:00会場/13:30開会)

はじめに 「学会からの要望書提出の経緯」
佐藤正典(鹿児島大学)

講演1 「周防灘に残されている瀬戸内海の原因風景」
加藤真(京都大学)

講演2 「上関に生息する希少な鳥類について」
飯田知彦(九州大学大学院・日本生態学会)

学会からの要望書の説明
安溪遊地(日本生態学会上関問題要望書アフターケア委員会委員長)
佐藤重穂(日本鳥学会鳥類保護委員会副委員長)ほか

コメント 「上関周辺に生息する希少魚類について」
岩田明久(京都大学・日本魚類学会)

コメント 「陸上生物、里山の観点から」
野間直彦(滋賀県立大学)

コメント 「生物多様性条約に基づく国の政策」
国会議員(調整中)

【問い合わせ先】 083-928-5496(安溪)・099-285-8169(佐藤)
e-mail: sato@sci.kagoshima-u.ac.jp

主催/日本生態学会 自然保護専門委員会
日本鳥学会 鳥類保護委員会
日本ベントス学会 自然環境保全委員会

後援/日本魚類学会 自然保護委員会
(財)日本自然保護協会
(財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン
バードライフ・インターナショナル
ラムサール・ネットワーク日本
生物多様性条約市民ネットワーク



●シンポジウム「海の生物多様性と海鳥」(IBA~陸から海へ)

生物多様性条約(CBD)締約国会議において、沿岸、海洋の保全については、「少なくとも

10%が実効的に保全されること」という目標が定められています。本年10月に名古屋市で開催される第10回締約国会議(COP10)で決定される2011-2020年の長期目標においても、2020年までに保護地域により保全されることが盛り込まれ、その数値目標が議論される見込みです。しかし、日本国内においては、周囲を海に囲まれ多種多様な海の生物の生息環境を抱えているにもかかわらず、海洋保護区の取り組みはまだほとんど進んでいないのが現状です。日本野鳥の会は、野鳥を指標とした重要な生息地(IBA)を保全するためのリスト作成とその保護区化の運動を1995年に開始し、陸域のリストを2004年に公表しました。そして今年からマリーン IBA(海の重要野鳥生息地)の選定に着手しています。マリーン IBA は、海鳥を指標にした海洋保護区選定のための候補地リストです。このリストを生かし海の生物多様性を守っていくためには、実効性のある海洋保護区の制度や取り組みを考えていく必要があります。シンポジウムでは、日本の海鳥や海洋保護区の現状を共有し、海鳥保護のため、そして海の生物多様性保全のための、海洋保護区の実現に向けて議論を深めていきます。

日時:2010年7月24日(土)13:00~17:30

会場:立正大学大崎キャンパス 11号館1151室(東京都品川区大崎4-2-16)

http://www.ris.ac.jp/guidance/cam_guide/

主催:財団法人 日本野鳥の会 共催:立正大学地球環境科学部

参加:無料。当日参加可。当日参加も可能ですが、参加者数把握のため、事前の申込をお願い致します。

E-Mailにて、下記の要領でお申し込みください。宛先:hogo@wbsj.org 件名:シンポジウム参加申し込み

※このシンポジウムは、三井物産環境基金の助成を受けています。

スケジュール

12:30~ 受付開始

13:00~ 開始

13:15~

第1部 基調講演「海鳥と生物多様性」

綿貫 豊(北海道大学大学院水産科学研究院・准教授)

13:45~ 第2部 海鳥のおかれている現状

①世界の海鳥の現状

佐藤 真弓(NPO 法人バードライフ・アジア・研究員海洋・海鳥保全担当)

②保護の取り組み(エトピリカの事例)

片岡 義弘(NPO 法人エトピリカ基金・理事長 片岡義廣)

③マリンレジャーによる攪乱(ベニアジサシの事例)

(財団法人 山階鳥類研究所)

④コロニー周辺での海鳥の状況(カンムリウミスズメの事例)

山本 裕(財団法人日本野鳥の会 自然保護室)

⑤洋上風力発電の影響

浦 達也(財団法人日本野鳥の会 自然保護室)

15:30～ 第3部 海洋保護区の現状と課題

①日本における海洋保護区の現状

前川 聡(財団法人世界自然保護基金ジャパン 自然保護室・海洋担当)

②海洋保護区の課題と求められること

向井 宏(海の生き物を守る会・代表)

③海洋保護区実現のための制度について

荒牧まりさ(環境省自然環境局自然環境計画課 サンゴ礁保全専門官)

④地域と海鳥の共存に向けて

篠木秀紀(財団法人日本野鳥の会 サンクチュアリ室)

16:40～17:30 第4部 ディスカッション

海鳥の保護と海の生物多様性保全について

●2010年第3回コーラル・ネットワーク会員勉強会
「サンゴと遊ぼう！サンゴの骨格染めに挑戦！」

青い海！白い砂！海の中にはたくさんの魚達があります。そして魚や生き物達が集まってくるのが、美しいサンゴ礁です。このサンゴ礁を作っているのは、「サンゴ」です。サンゴは実は生き物で、白くて硬い骨格を持っています。よく、沖縄の海岸やお土産屋さんで見かける、白くてポツポツと穴が空いている、あれですね。手に取ってみると、一つ一つ色々な模様があって、とても不思議です。今回はこのサンゴが作る骨格の模様を「こすり出し」という方法で布に写し取る、染め物に挑戦します。デザインはあなたのアイデアとサンゴとのコラボレーション、世界にひとつだけのオリジナル作品です。

サンゴ礁の海から遠く離れた東京ですが、サンゴにふれて、遊ぶことで、海の命のにぎわいを感じることが出来るかもしれません！

日時：2010年7月24日（土）13時半～16時半（13時15分開場）

場所：環境パートナーシップオフィス(EPO)内 エポ会議室

(東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山 B2F)

※表参道駅 B2出口より徒歩5分、渋谷駅東口から徒歩10分

http://www.geic.or.jp/geic/intro/epo_map.pdf

主催：CN 会員勉強会プロジェクトチーム <http://coralnetwork.jp/>

講師：小林恵美（コーラル・ネットワーク一般会員）

渡辺未知（コーラル・ネットワーク一般会員）

対象：コーラル・ネットワーク会員・非会員問わず広く一般の方

小学生以上（小学生の場合は保護者同伴のこと。親子でのご参加歓迎します。）

- ・海が好きな人
- ・サンゴに興味がある人
- ・夏休みの宿題に困っている人？！

参加費：300円（コーラル・ネットワーク会員は無料）

（材料を会場でお求めの場合は別途費用がかかります。）

定員：20名

持ち物：染めるもの

白い布（棉がベストです）で出来た、染めてみたいもの。

例) Tシャツ、エコバッグ、バンダナ、てぬぐい、ふろしき、ティッシュケース
染めるものを忘れてしまった方には、会場で有料(100円程度)にてお譲りします。

申込・問合せ：必要事項をご記入のうえ、メールで。 moushikomi@coralnetwork.jp

必要事項 ※メール件名：サンゴ骨格染め申込み ※本文・お名前（ふりがな） ・お子様連れの場合、お子様のお名前（ふりがな）と学年 ・メールアドレス ・コーラル・ネットワーク会員はその旨を、コーラル・ネットワーク 非会員の方は何でお知りになったかを

折り返し担当よりご案内します。（ご連絡までに数日いただくこともあります）

申込締切：7月22日（木）正午 定員になり次第締め切ります。お早めに。

コーラル・ネットワーク <http://coralnetwork.jp/>

リーフチェック in ジャパン <http://www.reefcheck.jp/>

●日本人の生業と自然再生

自然再生のめざす姿 生業の再生／暮らしの再生／自然の再生

場所：東京農業大学 世田谷キャンパス 1号館 314号室（定員200名）

主催：自然再生を推進する市民団体連絡会

2010年7月27日（火）9時～10時30分（～12:00ディスカッション）

講師：

宮林茂幸 東京農業大学農学部森林総合科学科林政学研究室教授

渋谷寿一 樹木・環境ネットワーク協会 理事長

竹田純一 里地ネットワーク／山村再生支援センター事務局長

木村 尚 海辺つくり研究会事務局長「THE！ 鉄腕！ DASH!!」ダッシュ海岸監修者

山道省三 全国水環境交流会代表理事／東京農業大学客員研究員

吉野奈保子 森の“聞き書き甲子園”実行委員会事務局

海の再生

①生業と海 ②海の生物多様性と恵み ③流域と浜辺、暮らしの自然再生

申込方法：saisei@satochi.net あてにメールでお願いします。

●北限域の造礁サンゴ分布調査 伊豆北川探索調査開催 参加者募集

造礁サンゴ探索調査を東伊豆の北川で実施します。メンバーによる下見では、複数の造礁サンゴ群集が確認されており、あらためて探索調査を実施する運びとなりました。

どんな造礁サンゴがどのくらい確認できるか、大いに期待されます。来年3月発行予定の「造礁サンゴフィールド図鑑」（後編）に掲載するための写真撮影も行います。調査が初めての方もご遠慮なくお問い合わせください。

開催日：2010年8月8日（日） 日帰り

場所：静岡県賀茂郡東伊豆町

募集人数：10名（最少催行人員5名）

集合：伊豆急行線「城ヶ崎海岸駅」9:15集合

参加実費：17,000円 ※2ボートダイビング費・保険料含む

対象者：ボートダイビングの経験者・30本以上の潜水経験者

詳しくは、こちらをご覧ください。

⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/sango/discovery.html>

●海辺のナチュラルリスト講座（スタッフ研修特別コース）開催

今年度、OWSでは子供を対象とした海辺で行う自然体験学習プログラム「ネイチャースクール三浦（日帰り）」を7回以上実施します。この特別コースでは、ネイチャースクールの実施準備のほか、海辺の自然や生き物と親しみ、楽しみながら自然を守るための基礎的な知識や方法を学べます。参加者には修了証として「ナチュラルリスト」カードが発行されます。スノーケリングやダイビングなど特別なスキルは必要なく、健康な方ならどなたでも参加できます。この機会にぜひご参加ください。

▼ネイチャースクール ⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/index.html>

開催日 2010年9月4日（土）～5日（日） 1泊2日

場所 三浦半島

募集人数 6名（最少催行人員3名）

受講費 7,000円（特別価格） ※通常受講費は13,800円

※別途、宿泊費（1泊2食付：8,000円）、食費、往復交通費

対象者 1回以上ネイチャースクールにスタッフとして参加できる方 ※要メンバー登録
ネイチャースクール三浦（日帰り）開催日

9月11日(土)、9月25日（土）、10月以降ほか2回開催予定

申込み・問い合わせ

OWS 事務局までホームページから、またはE-mail、お電話にてご連絡ください。

(TEL:03-5960-3545) ⇒ <http://www.ows-npo.org/volunteer/index.html#ns1>

●「そうだ！海だ！海藻だ！」ーいのちをつなぐ海の森ー

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 第49回企画展

期間：2010年7月10日(土)～9月20日（月・祝日）

開館時間：09:30～17:00 休館日：毎週月曜日（祝日は開館）

入場料：大人 720円 高校・大学生 440円 小中学生 140円

第49回企画展
**そうだ！
海だ！
海藻だ！**
See Seaweeds! A Cradle of the Sea!
ーいのちをつなぐ海の森ー

2010年7月10^土日から9月20^月日まで
7月10日は午後1時からの公開となります。

■開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
■休館日 毎週月曜日
*ただし、7月19日(月) 8月20日(月)は開館し、翌日が休館日となります。
*8月16日(月)は開館し、翌日は休館日ではありません。

■入館料 大 人 720円(680円/年費)CSポート1,500円
高校・大学生 440円(300円/年費)CSポート1,000円
小・中学生 140円(70円/年費)CSポート300円
*(14歳以下は20名以上の団体料金です)
*本館が主催するイベントの開催に際しては、別途入館料がかかります。
*この料金には、本館内常設展(常設展)の入館料が含まれていません。
*毎週土曜日は、小・中学生は入館無料です。(ただし、団体は別料金がかかります。)

■主催 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
■後援 アクアワールド茨城県大洗水族館・NHK水戸放送局
茨城新聞社・ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会

■記念行事 ●自然講座「海藻の色の秘密にせまる」8月7日(土)
●自然観察会「乾し海苔をつくらう」8月9日(日)
*上記イベントは、すべて事前申込みが必要となります。

■交通案内 ●車利用の場合
・常磐自動車道谷和原ICから20分
●鉄道・バス利用の場合
・つくばエクスプレス守谷駅下車～関東鉄道バス「岩井行き」
又は「鶴島行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩5分
・JR柏駅から東武野田線乗り換え、栗原駅下車～茨城急行バス
「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分

■次回企画展のお知らせ 第50回企画展
「茨城山」ーフナとガマと岩とー
2010年10月9日(土)～2011年1月10日(月)

ミュージアムパーク
茨城県自然博物館
〒306-0822 茨城県東茨城郡大洗町100番地 TEL:0297-39-3300
ホームページアドレス <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

●海藻おしば協会のホームページをリニューアル

このたび認定講師である渥美圭子さんに多大なご協力をいただき、協会のホームページのリニューアルを終わりました。すでにご覧になってご利用されている方もいるかと思いますが、あらためてご連絡いたします。まだ一部工事中のパートもありますが、ほとんど完成しております。中でも最新の活動情報（告知と結果報告）は、充実した内容にするために「ブログ」形式をとっています。皆さんのさまざまな活動も、このブログで発信することができますので、活動内容や写真を添付して事務局までお送りください。

海藻おしば協会ホームページアドレスは <http://www.kaisou048.jp>

【近畿】

●第8回有田川干潟観察会

日時：2010年7月25日（日）、10:30～12:30

観察予定地：有田市立病院前の干潟

ハクセンシオマネキやチゴガニの求愛行動、多数のアシハラガニやトビハゼ、絶滅寸前種のコゲツノブエなど、たくさんの生き物を観察できます。今年は例年の観察会に加え、市民参加型の生物調査（助成：日本財団）もできれば行います。生き物好きのあなた、是非ご参加を。

集合時間と場所：10時半に有田市役所南側の川沿いの駐車場（JR 箕島駅から徒歩5分）
但し、雨天中止（小雨決行）

費用：レク保険一人20円（事前申し込み）、資料一部100円、どちらも希望者のみ
服装や準備物、その他注意点：長靴または泥にはまっても良い靴（サンダル・水雪駄は泥に足を取られるので不適）。帽子、タオル等、採集道具や飲食物、着替えは各自の判断で。
レクレーション保険への加入を希望される方は、準備の都合上21日（水）までに、氏名・年齢・性別を溝口までご連絡ください（連絡先は下記参照）。

主催：和歌山大学教育学部生物学教室（代表：古賀庸憲）

保険加入希望者申込先：e-mail: kazukomz@center.wakayama-u.ac.jp、または073-457-7378、生物学教室の溝口まで。

その他問い合わせ：e-mail: tkoga@center.wakayama-u.ac.jp、または090-4499-3157 古賀まで

●特別展「みんなでつくる淀川大図鑑 - 山と海をつなぐ生物多様性」

大阪市立自然史博物館

7月24日（土）から9月20日（月・祝）まで、

博物館と市民で結成した、淀川水系調査グループ『プロジェクトY』の調査成果をもとに構成された、淀川の自然の今の姿が一目でわかる「大図鑑」となる展示をめざしています。国際生物多様性年の今年、改めて都会に残された淀川という大自然をみつめ、私たちがそ

れをどのように守っていきべきかを考える契機にしたいと考えています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

会期：平成22年7月24日（土）から9月20日（月祝）

休館日：毎週月曜日（9月20日は開館）

会場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

主催：大阪市立自然史博物館、大阪市立自然史博物館友の会・淀川水系調査グループ「プロジェクトY」、特定非営利活動法人大阪自然史センター

後援：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所、環境省近畿地方環境事務所、大阪府教育委員会

連携協力：生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会、水草研究会、水道記念館

助成：日本財団

観覧料：大人500円、高校生・大学生300円、中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。

淀川展ホームページ<<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2010yodogawa/>>

【主な展示】

- ・明治期の淀川改修に関する当時の史料（予定）
- ・明治初期、明治末、1940年代、60年代、80年代、2000年代の地形図・空中写真による流域の景観の比較
 - ・河川改修で流路をどう変える？博物館オリジナル「淀川コロコロシミュレータ」
 - ・「プロジェクトY」による淀川本流・集水域の生物分布調査結果と標本・生品
 - ・淀川から消えた生き物・はびこる外来種
 - ・キミの手で氾濫原を取り戻そう！博物館オリジナル「淀川大堰シミュレータ」
 - ・イタセンパラ水槽展示（8/14から8/22まで）

■大学・高校・中学校での展示見学の推薦のお願い

特に淀川流域や大阪近郊の大学、高校、中学校の教員で本展に関心がおありの方は、ぜひ学生・生徒さんに夏休み中の展示見学をご推薦ください。ご推薦頂ける場合は、石田<iso@mus-nh.city.osaka.jp>まで個人メールでお知らせ下さい。履修人数分のチラシと割引券（高大生300円を200円に割引）をお送りします。中学生以下の観覧は無料です。

■さらに、展示見学を「課題・宿題」として設定して頂ける場合は・・・

担当教員の人数分の特別展招待券を進呈いたします。履修人数によっては別途おまけがあります（詳細は石田まで）。

■「課題・宿題」の設定に便利な見学ワークシート

生徒の皆さんが見学しながら記入完成する「淀川大図鑑」見学ワークシートを作成しました。課題・宿題の設定とあわせて、本シートの採用もご検討下さい。中学生・高校生のカリキュラムを想定して作成していますが、大学生でも十分に淀川の自然、地域の生態を学ぶ教材として活用していただけたと思います。ワークシートの提示で高校生・大学生の

観覧料は 200 円になります。

■ワークシートのダウンロード 淀川展ホームページ

<<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2010yodogawa/>>からダウンロードできます。

【PDF 版】 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2010yodogawa/ws.pdf>

【MS-Word 版・加工可】 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2010yodogawa/ws.doc>

【ご活用の手引き（先生用）】

http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2010yodogawa/ws_tebiki.pdf

必要部数を各校において印刷していただくか、請求依頼書でご請求下さい（fax: 06-6697-6225）。依頼書は以下のアドレスからダウンロードできます。

【請求依頼書】 http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2010yodogawa/ws_seikyuu.pdf

請求に際して、ご希望の先生には「回答と解説（先生用）」をお送りします。

■ワークシートに関するお問い合わせ

本ワークシートの活用方法や内容に関すること、関連する資料の提供、その他本展についてご不明の点がありましたら、下記担当までお気軽にお問い合わせ下さい。「ワークシートご活用の手引き」および回答のデータもお送りできます。

大阪市立自然史博物館 担当学芸員：佐久間大輔・釋知恵子

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

tel.:06-6697-6221 / fax : 06-6697-6225 email : tm@mus-nh.city.osaka.jp

特別展ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2010yodogawa/>

学校と自然史博物館ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/edu/index.html>

【北陸】

●映画「祝の島」上映会と瀬瀬あや監督&刈羽女性の対話

7月18日19日、映画『祝の島』新潟県の3会場で上映&監督と刈羽女性の対話。

市民映画館をつくる会

18日（日）

13:00～ 十日町情報館視聴覚ホール（新潟県十日町市西本町2丁目）

18:30～ 三条市中央公民館音楽視聴覚室（新潟県三条市元町13-1）

19日（月祝）

13:00～ 長岡市立中央図書館2F講堂（新潟県長岡市学校町1丁目2番2）

【中四国】

●7月以降の海岸生物調査予定

7月 24日（日） 岡山県 瀬戸内市牛窓

8月 8日（日） 香川県 観音寺市

21日（日） 愛媛県 伯方島

各地で生物調査にご協力頂いている皆様、日程が決まりましたらご連絡下さいますようお願いいたします。

連絡先 環瀬戸内海会議生物調査担当 小西 良平 rkshizutani@mx1.tiki.ne.jp
同事務局 松本 宣崇 nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

【沖縄】

●沖縄子ども環境調査隊特別企画「夏休み親子学習会」 ～サンゴ礁について学ぶ～

地球のすべての生き物は、他の生き物と何らかの関係を持って生きています。サンゴ礁は島々を取り囲んで発達し、人々の暮らしにとってかけがえのない自然です。学習会は親子でサンゴ礁の成り立ちやそこに暮らす生きものたちの多様性などを学び、サンゴ礁を保護すること等について考えましょう。

第1回 7月22日(木) 10:35～15:00

「テーマ 沖縄のサンゴ礁」

講師：西平守孝氏（海洋博覧会記念公園管理財団参与）

場所：海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター

第2回 7月29日(木) 10:35～15:00

「テーマ サンゴ礁の生き物たち」

講師：若井万里子氏（海洋博公園管理センター） ほか

場所：海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター

第3回 8月7日(土) 10:35～15:00

「テーマ サンゴ礁の保全と活用」

講師：比嘉義視氏（恩納村漁業協同組合）

場所：恩納村コミュニティセンター中集会室

対象：小学生または中学生の親子

持ち物：弁当。各自、自家用車でおいでください。

定員：各テーマ親子ペア 25組（50名）

申込方法：テーマをひとつ選んで申し込む。重複申し込みの場合は初参加者を優先

申込先：沖縄タイムス社 子ども環境調査隊事務局 098-860-3573

5. 海の生き物とその環境に関する本とweb

●『推薦！海洋保護区』

この度、CBD 市民ネット沿岸・海洋作業部会では、一般の市民の方へ「海洋保護区」への関心を持っていただくと同時に、自ら写真を投稿することで海洋保護区を推薦することのできる参加型サイト『推薦！海洋保護区』 <http://mpa.cbdnet.jp> リリースいたしました。

風景、波、生き物たち。

眺めてもつかまえても食べても、乗っても泳いでも潜っても、

私たちは海の恵みをさまざまかたちで受けています。

美しい海、豊かな海をなくさないために、いまからできることがあります。

海を守っていつまでも その幸をいただくための「海洋保護区」。

世界中で拡がりを見せていて、日本でも作ろうとする動きが活発化しています。

いまならあなたの推薦が、実を結ぶかもしれません。

あなたが大好きな海の写真を送って下さい。思い出になってしまった海の写真も大歓迎。

いつかその海が戻ってきてくれることを期待しつつ、推薦してください。

自ら写真投稿で参加していただくことはもちろんのこと、海を愛する方々にご連絡いただき、応援していただける方を増やしてください。ご自分のホームページやブログ等にバナーを貼っていただくことも大歓迎です。以下にバナー画像の URL と、直接 HTML に追加できるコードを記しましたので、ご利用ください。バナーの画像 URL はこちらです。

<http://mpa.cbdnet.jp/images/banners/mpa-banner.png>

以下の HTML を直接追加していただくと、バナーが表示され、クリックすると「推薦！海洋保護区」のサイトが表示されます。

```
<a href="http://mpa.cbdnet.jp" target="_blank" ></a>
```

以下の HTML は「推薦！海洋保護区」リンクを表示します。

```
<a href="http://mpa.cbdnet.jp" target="_blank" ><B>推薦！海洋保護区</B></a>
```

バナー利用については、特にご連絡をいただく必要はありませんが、疑問点等ありましたら、稲垣 <seiji.inagaki@gmail.com> までご連絡ください。

● [新雑誌のご案内]

フリーラン9月号別冊「nagisa (なぎさ)」～波打ち際のメッセージ～vol. 01

7月16日発売 定価780円 (本体価格743円) [発行元] 株式会社フリーラン

「No Ocean、No Life」そういう思いで海と親しんでいる人こそ、いちばん危機感を持っている。そんな海からの目線で地球を考える、ジャンルを超えた海の雑誌が創刊されます。

遊んでいても、知らないことの方が多い海。

身近な砂浜が消え行く今、そろそろ耳を傾けてみませんか？

◆特集「水に流せない話」

◇海はきれいになったの？ ならないの？◇生物多様性ってどういうこと？

◇千葉県一宮海岸、署名運動のその後は？◇ビーチコーミングの可能性

◇アマモ場再生にどんな意味がある？◇シロクマ、ジュゴンの未来は？

◇なぜパタゴニアばかりが取り上げられる？

◆オーシャンラバー100人アンケート

海で活動される多くの方々にご協力いただいています

◆その他の企画 ●なぎさのあるき方●のぞいてみよう、湘南・海の中

●ルーツの国タヒチ●ビーサンが似合うNPO、NGO ほか

全国の書店に配布されますが、見つけにくい場合はこちらからでもご注文いただけます

→ www.freerun-mag.co.jp/nagisa/ ※5冊以上のご注文は、送料無料

※発売日から、web版『nagisa』（同上アドレス）も同時スタートします。

+++++

フリーラン9月号別冊「nagisa（なぎさ）」～波打ち際のメッセージ～vol. 01

7月16日発売 定価780円（本体価格743円）[発行元] 株式会社フリーラン

遊んでいても、実は知らないことが多い海。
身近な砂浜がきえゆく今、そろそろ耳を傾けてみませんか？

波打ち際のメッセージ

nagisa

7月16日発売 定価¥780 (本体¥743)
詳しくはWEBで！ www.freerun-mag.co.jp/nagisa/

◆特集「水に流せない話」

実は知らないことのほうが多い海。身近な砂浜が消えゆく今、そろそろ耳を傾けてみませんか？

◇向井宏先生に聞きました「海はきれいになったの？ ならないの？ 生物多様性ってどういうこと？◇千葉県一宮海岸、署名運動のその後は？◇諦めない市民活動◇シロクマ、ジュゴンの未来は？◇なぜパタゴニアばかりが取り上げられる？

中には重いテーマもありますが、どれも大切なことばかり。きちんと読んでほしいから、美しい写真やイラストを多用し、めくる楽しさも添えました。

◆その他の企画 ○オーシャンラバー100人アンケートには、サーファー、学者さん、漁師さんまで、海で活動される多くの方々にご協力いただいています。なぎさのあるき方。のぞいてみよう、湘南・海の中。ルーツの国タヒチ。ピーサンが似合うNPO、NGO ほか webも発売直前に立ち上げるべく準備中→ www.freerun-mag.co.jp/nagisa/

[発行元] 株式会社フリーラン 〒101-0031東京都千代田区東神田1-5-6 東神田MK第5ビル7F TEL: 03-5823-8331 FAX: 03-5823-8330

[発行人] 根岸 聡 [編集人] 田代紀子

6. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

7. 編集後記

豪雨が各地で被害をもたらしています。しかし、まもなく梅雨は明けそうです。本格的な夏はやはり海へ出かけてみましょう。海の生き物にぜひとも接して下さい。第2回観察会と講演会は、北海道厚岸町の大黒島です。お近くの方はぜひご参加ください。次回「うみひろも」は、今月末と来月の初めに北海道で上映会・講演会と観察会を行いますので欠号とし、8月16日に配信の予定です。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第 63 号

2010 年 7 月 15 日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会